

花巻市社会教育委員会議（会議録）

日 時 平成27年8月26日（水）午後1時30分～午後3時50分

会 場 花巻市生涯学園都市会館 3階第2・第3中ホール

出席者 委員出席者 13名 石橋恕篤委員（議長）、市川浜委員（副議長）、紺野盛委員、高橋啓悦委員、福盛田弘委員、佐々木勝男委員、佐々木隆樹委員、小原幸子委員、紺野佳子委員、佐藤公一委員、佐々木繁夫委員、門馬優子委員、菊池清委員

委員欠席者 6名 木村直樹委員、尾美裕功委員、安藤聡子委員、伊藤晴二委員、佐々木さつき委員、藤本眞津子委員

市側出席者 5名 細川生涯学習部長、市川生涯学習交流課長、同課小原主任主査兼芸術文化係長、同課上野生涯学習係長、同課菊池主事

報道機関 1名 岩手日日新聞社 似鳥政美

傍聴者 0名

次第 1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 花巻市生涯学習振興計画策定に係る市民意識調査結果について

(2) 生涯学習振興計画における主な成果指標の進捗状況について

4 その他

5 閉 会

1 開会

（事務局：小原主任主査） ご案内の時間となりましたので、次第に従いまして進めさせていただきます。それではただ今より平成27年度第2回花巻市社会教育委員会議を開催させていただきます。

2 あいさつ

（事務局：小原主任主査） はじめに、細川生涯学習部長よりご挨拶を申し上げます。

（事務局：細川部長） 皆様、本日は大変お忙しい中、今年度第2回の花巻市社会教育委員会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。第1回に続きまして今回第2回目ということで、生涯学習振興計画策定にかかるアンケートの結果をとりまとめさせていただいたものを事前に送らせていただきお目通しいただいたところでございます。本日はこの市民意識調査、アンケートの結果についてと、あと前回の会議でもご意見を頂戴しておりました現計画の総括といえますか計画の進行状況について踏まえた上で新しい計画を練る方向で考えるべきではないかというご意見を頂戴しておりましたので、その部分、数値目標なども掲げておりましたので、その達成状況等も踏まえまして、今日は（2）といたしまして進み具合の状況についてのご報告をさせていただくことで、項目にあげさせていただいております。この2項目でまずは次のステップに進んでいく上での会議ということになるかと思っておりますので、委員の皆様方のご遠慮のないご意見を頂ければと思いますので、今日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(事務局：小原主任主査) 続きまして、石橋議長様よりご挨拶をいただきたいと存じます。よろしくお願いたします。

(石橋議長) 皆様こんにちは。暑い暑いという夏の過ごし方でもございましたけれども、暦の上では秋ということなのでしょうけれども、依然として暑い日が続いております。私事でたいへん恐縮でございますけれども、いつも1日1万歩を目指して歩いたりするのですけれども、過日ですね、暑い中を外にぶらりと出ましたところ、途中で何となく様子がおかしいなど。自分でまっすぐ歩こうとしているのですけれども、右へ右へと足がいつてしまうんですね。そういったことで、愚かなことをしてしまったなど、この暑い最中を思いながら、この暑さを何とか凌いで参りました。委員の皆様はいかがお過ごしだったでしょうか。今日はですね、その暑い暑いと言われる中でも何となく涼しいような感じがいたします。ひとつ委員の皆様本日はご忌憚のないご意見を賜りまして会議の趣旨を全うさせていただきたいと思っております。簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

3 議事

(事務局：小原主任主査) ありがとうございました。それでは早速協議の方に入らせていただきたいと存じます。ここからの進行につきましては議長様にお願いいたします。石橋議長様よろしくお願いたします。

(石橋議長) それでは議事に入りたいと思っております。最初に初めに花巻市生涯学習振興計画策定に係る市民意識調査結果について、ご説明をお願いいたします。

(事務局：市川課長) それでは、ご説明させていただきます。事前に配布しておりました「生涯学習に関する市民意識調査結果」をご覧くださいと思います。

～ 事前配布資料 (No.1) について説明 ～

(石橋議長) ありがとうございました。今、市川課長からご説明をしていただきましたけれども、これについてご意見ご質問ある方、どなたかございませんか。

(菊池委員) 確認をお願いしたいのですが、前回のアンケートというのは20年に計画ができる前の19年のアンケートということでよろしいでしょうか。よろしいですね。それから、回収率のところで前回31.35%とあるのですが、これは対象者数が前はもっと多かったということですか。2,500人で31%というところとちょっと違うような気がするのですけれども。

(事務局：市川課長) 前は3,000人でした。

(菊池委員) わかりました。ありがとうございます。

(石橋議長) よろしいでしょうか。菊池委員さんのご質問でした。他にございませんでしょうか。

(福盛田委員) 私もアンケート調査結果を見たときに課長さんのおっしゃられたとおり、生涯学習がわからなということが出てきました。やはりこれが気になっていたのですが、これは19年度のときはこういう設問で出ていたのですか。それとも今回初めての設問で出てきた課題ですか。それとやはり情報提供ですね。どこで何をやっているか、花巻市の広報を見て判断しているのか、あと、いろんな振興センターとか各公民館あたりの情報で提供されているのか、その辺は分析しなければならないと思うのですが。これから生涯学習に関してのわからないという部分、どういうふうな取り組みでいこうとするのかちょっと考えたいと思います。

(石橋議長) 2点について福盛田委員さんからご質問がありました。1つは、生涯学習のこれは「意味」ということよろしいですか。それから情報提供について、この2点の質問でございます。これについて、ご回答お願いいたします。

(事務局：市川課長) 前回のアンケートでは、実は生涯学習のことについて、「あなたは生涯学習という言葉聞いたことがありますか」という設問がありました。前回の回答では、「聞いたことがある」という人が88.2%と高かったのです。「聞いたことがない」というのは10%。そうですので、もうそのあたりは浸透していると考えまして、特別に「生涯学習という言葉聞いたことがありますか」という設問は設定しなかったのです。質問の中で、「生涯学習活動（自主的に学習を行う活動）についてどう思いますか」、という聞き方をしているのですが、「わからない」という回答が結構目についたなという状況です。あと、情報提供につきましては、講座についてはすべて広報で流しておりますし、ホームページなり、例えばFMとかですね、そういうものでも宣伝はしているのですが、振興センターでやっている講座につきましては、振興センターだよりとかコミュニティでもお知らせは現在している状況ですが、やはり見ない方は見ないというところもありますけれども、結構、情報提供、もっと知りたいというご意見は多いなと思いますので、二重三重に、きりはないかもしれませんが、いろいろやっていかなければならないかなと思っております。

(石橋議長) ありがとうございます。他にご質問等はございませんでしょうか。紺野委員さん。

(紺野(佳)委員) 3点についてお聞きしたいと思います。生涯学習がなんか知られてきているようなことが伺われて大変いいアンケートだったなど、全体を見て思いました。重要なことがあちこちにいきわたっていい方向に学習が進められているのではないかと考えております。3点の1つ目なのですが、活動場所についてまなび学園と振興センターの数が多かったのですが、足りているのでしょうか。活動したいという人たちの要望に活動場所が足りているととらえておられるのかどうかお聞きします。それから、活動場所とも関係しますが、活動するのに大事なのは場所と費用なんですね。場所を借りるための費用を個人で負担しているのかどうか、公共のものを使っていることで足りているのか、個人でもし借りているなどの場合等の実態はどんなふうにとらえられているのかなど、生涯学習をやりたいという要望に対してその辺とても大きいのではないかと考えます。3つめは、生涯学習についての相談窓口なんですが、例えば、まなび学園だったら窓口はどういう担当の方なのか、それから振興センターなら相談の窓口は、場所を借りたりとういうことではなくて生涯学習したいのだがという方の相談の窓口についてお聞きしたい。以上、3点です。

(石橋議長) ありがとうございます。紺野委員さんから、活動場所は足りているか否か、それから2つ目として費用の個人負担等について、3つ目は相談窓口と3点についてのご質問でしたけれども、これについてご回答をお願いいたします。

(事務局：市川課長) 活動場所が足りているかという点ですけれども、アンケートを見ますと、やはり図書館など古い施設を新しくしようと動いていますけれども、やはり図書館をもう少し活用したいのとか、文化会館もそうですが、そういう施設の充実を図って欲しいというご意見は相当あります。まなび学園もかなり使われておりますが、容量オーバーで全く足りないという訳ではございません。あと各振興センターも空いているときは空いておりますし、そこでできない訳ではないのですが、これで十分だというふうには考えておりません。図書館なり、文化会館なりという生涯学習の施設、学習だけではない、教室だけではないという部分では、ちょっと弱いかなと思っておりますし、ご意見をいただいたなと思っております。あと費用ですね、生涯学習活動をする場合には、公共施設はまず無料でやっていますので、今回あえて経費をかけてもよいでしょうかという設問を今回新たに出して、2万円程ならという回答がきているわけなのですが、個人で借りられたり個人でやっているというのは、こちらの方では把握はしていませんで、費用は多分、あまりかけないでですね公共的な施設でやりたいと考えているだろうなと思ったのですが、予想外にお金かけてでも生涯学習をしたいという回答もあったなという実感はもっています。相談の窓口についてですが、まなび学園で生涯学習どういうのをやりたいですよという相談がある場合は当然窓口の方でお受けいたしますし、ご説明できる体制にはなっております。あとは市役所の本庁舎の生涯学習交流課の本体の方でもできるようにはなっておりますし、各支所にもそういう役割はもっているところでございます。振興センターとなりますと、昔の公民館とは違くなっておりまして、振興センターでは今説明できるかという、いろいろできない部分もあるかとは思いますが、各支所と本庁とこちらでは、相談できるような形にはなっているところでございます。

(石橋議長) ありがとうございます。

(紺野(佳)委員) すみません、今ので。

(石橋議長) 関連質問ですか？

(紺野(佳)委員) 今ので。相談窓口のことなのですが、まなび学園で相談窓口やっている方は市の職員ですか。

(事務局：市川課長) そうです。

(紺野(佳)委員) とすると、本当に社会教育関係にわかってらっしゃる方ですか。

(事務局：市川課長) はい、そうです。

(石橋議長) ありがとうございます。小原委員。

(小原委員) 生涯学習について非常に極端だなと思います。実は、大変活用しまして、健康増進あるいは趣味を深めることができた非常に喜んでおられる方、シニア大学は12年なんですとか、そんなに長い間まなび学園に通わなければならないのと言うくらい、すごく熱心に通って利用してらっしゃる方がいる反面、いろいろなメニューがあるにも関わらず、生活が忙しいとか、若い人たちですね、仕事だ子育てだといって、結構、来れないとおっしゃる人たちもいらっしゃるの、そんな人でも来れる子育て支援の方も、まなびにはあ

るんですよといいいながらも、もっともっと何とか広く皆さんに支持していただける方法を取れたらいいかなど。高齢者がたくさん多く時間をもて余していることは、ルンルンと喜んでいきますから、それはすごくいいことだと思っっています。以上です。

(石橋議長) 感想ということでよろしゅうございますか。ありがとうございました。佐々木委員さん。

(佐々木(勝)委員) 問5番の「あなたは最近1年間の間に生涯学習をしたことがありますか」という質問に対して、「ある」と答えたのがそこに出っていますが、この中のですね、1市3町の答えた数はわかりますか。わかれば教えて欲しいです。

(石橋議長) これについてお願いします。

(事務局:市川課長) 旧4地区での割振りはしてなくてですね、27の振興センターごとで分析をしております、その中で「ある」と答えているので一番多いのはやはり、花北地区でした。10.9%。大体、どの地区も多いのですが、旧花巻地区が比較的多めです。やっぱり公民館の流れがあったかなということで比較的多めではございます。ただ、旧3町の部分は低いというわけではなくて、高いところもございまして、好地は高いですとかですね。高いところもございます。旧1市3町でということになりますと、旧花巻のところ少し高めかなということが言えるかなと思っておりました。

(石橋議長) ありがとうございます。その他ございませんか。

(菊池委員) 先ほどの19年のアンケートということだったのですけれども、それと比較して計画の中のワークショップの意見からというのがありまして、「情報が不足している」「発信方法の改善が必要だ」という意見、それから「生涯学習そのものの意味や必要性がよくわからない」という、「生涯学習に魅力がない」という意見が寄せられたというのがあるのですけれども、その辺を今回改善したとかその何年間で改善したといか、あるいは、こちらから改善しようとしているというのは、どういう方法があるのでしょうか。かなり発信していると思います。広報とかホームページとか、それからいろいろな振興センターの。ただそれを先ほどおっしゃったように見るか見ないかというのもあると思うし、興味もないというのもあるかと思いますが、前回と変わって情報発信したものと、それから生涯学習とはこういうものだよとか何か発信したものと、そういうものはあるのでしょうか。

(石橋議長) ありがとうございます。19年のアンケートにからんだ質問でございしますが、いかがでしょうか。

(事務局:市川課長) 細かいところの分析がまだのところもあるのですが、大きいのでは、ホームページで「はなまきまなびガイド」というのを作りまして、講師ができる人を取りまとめまして紹介したり、若者とかですね、例えばPTA、若いお父さんお母さんでも活用できるようなのを目指しながら、ホームページを新設したというのがございます。毎年更新してですね、どういう講師がいるですとか、どういう生涯学習講座があるですとかをやっているのですが、なかなか。いくら効果はあったかなと思っっているのですが。

(石橋議長) 菊池委員さん、よろしゅうございますか。ありがとうございます。他にご質問のある方。いらっしやいませんか。特にはございませんか。佐々木繁夫委員さん。

(佐々木(繁)委員) 時間がないとかですね、いろいろな人がいるわけですが、市ではいろいろ工夫しているようでして、例えばアフターファイブですとか富士大学さんの講座とかやっているわけなのですが、市から見た生涯学習活動とういうのがもちろん一番大切なのですが、花巻市内で活動している生涯学習団体、どこでどういうことをやっているかの一覧があると非常に助かるなと思っております。例えば、ある自治体で県外なのですが、市のホームページを見ると、生涯学習というところを開くと、どこでどんな講座しているよというのがあるわけなんです。そのまとめ、どっか一か所あれば、あそこの町で月に何回、こんなことやっているんだよというのがすぐわかるのではないかなと思います。例えば、なはんプラザでもいろいろなことをやっています。もちろんまなび学園でもいろいろな講座あるいはシニア大学、シニア大学は昔から有名だったので、まなび学園を利用したいのだけれども、こんな団体がいるんだよ、あるいはこんな活動しているんだよ、入りたい人はいつも入会募集しているんだよ、というのが見えると非常に助かるなと思っております。生涯学習という市が中心、これももちろん大事なのですが、市で学んだ人たちが、自主的サークルで活動するとか、そういういろいろな種をまきながら、種をまいたならば一般市民が、小さい団体でもいいと思うのだけれども、どこでどんなことやっているとか、定例会がいつだとか、そんなことがあれば非常に助かるなと思っております。あるいは対象が一般女性だとか、高校生、中学生のボランティアを募集しているだとか、そういう窓口みたいな、まとめたのがあれば 回覧、閲覧できるのではないのではないかとこう思っております。もし万が一市からの補助があるならば、それを全員で回覧、もちろんお金があれば回覧義務なのだけれども、そうやって見栄えのあるあるいは中身の濃い、あるいはうちのそばの町でこんなことやっているんだ、たった5人だけれども、こういう定例会あるんだというのを、わからせるのも大事ではないかな。言いたいことは、市が中心となっているものもとっても大事だと思うし、いつまでも市中心ではなく、そのまいた種から広げていく、つまり自主的なサークルみたいな、そういう活動を増やすことも大事ではないかなと思っております。ちょっと長くなりました。

(石橋議長) ありがとうございます。佐々木繁夫委員さんから一目見てわかるというような意味内容の話がでてまいりましたが、その点についてはいかがでしょうか。

(紺野(佳)委員) 併せてよろしいでしょうか。一緒に、同じことですので。あの、同じことなので。花巻史談会というところも大変いい活動をしているという噂を聞いたんですね。そこでまなび学園に何日どういうことやっているんでしょうかと聞いたら、花巻史談会はまなび学園でやる講座とは関係がないので把握してませんというお返事だったんですね。有名な史談会のことほどどこに聞けばいいのかなとふと思ったことがございました。そればかりでなく小さい団体でもきっと皆さんに紹介していい団体、学習しているところがあるので、その辺の把握は、それは難しいことなんでしょうか。

(石橋議長) はい、ありがとうございます。紺野委員さんの補充といえますか、関連質問も併せてひとつご回答をお願いいたします。

(事務局：市川課長) サークル活動とかです。ね、史談会についてもなんですけれども、先ほど申し上げました数年前に始めました「まなびガイド」というホームページ上で紹介しているシステムになっておりまして、それをご覧いただければ連絡先なり何なりわかるようになってはいるのですけれども、そのホームページだけでいいかといったらやはり見づらいついというと変ですけれども、気が付かない点もありますし、いろいろ広報に載せたりもしてはいますが、二重三重、あるいはもっとこういう手段でということも加えなければいけないかなと今回のアンケートも踏まえて考えておるところです。史談会についてはですね、活動を把握していないというのは大変失礼いたしました。連絡先はうちの方でもわかっているはずなので、そこはちゃんと紹介できるようにするべきだったと思っております。どこまで宣伝すればいいかというのはきりがなくてですね、有名だと言われているシニア大学でさえですね、今年入った方で、「シニア大学を知らなかった。もっと宣伝しないとだめなんじゃないの。」、といわれるほどです。ね、やはりその個人差もございまして、目に触れるところにあつたかないかということもありますし、そういうところすごく広報活動というのは難しいかなと考えておりますが、またそこは重点的にやっつけていかなければならないかなと考えております。

(石橋議長) ありがとうございます。他に。福盛田委員さん。

(福盛田委員) 今、史談会の話が出ましたが、私、役員をやっていますので、紺野先生もわかっているとは思いますが、今、中央振興センターを活動拠点として活動していますので、ここの団体には加盟していません。今60人ほどの会員がいて年間3,000円の会費でやっているのですが、あと法人会員としていろいろな神社さんお寺さんなんかの住職さんも入れて活動しています。小瀬川新聞店を出しているニュース、あれにはいろいろな行事の部分を出していますので、今度も9月には花巻城のことについてアウトドアで講座を開く予定にしております。簡単ですが。

(石橋議長) ありがとうございます。質問ではなくて、史談会についての補足のお話でした。その他は。

(門馬委員) 先ほどの紺野先生のご質問の中で、費用の個人負担についてのご質問があつたのですけれども、確かに生涯学習団体に対して無料というか、私たちの団体なども年に1回申請をいたしまして無料で使っているという許可をもらっているわけですけれども、そういう堅苦しいといひますか生涯学習団体なら無料とかそういうことではなくて、営利団体ですよ、例えば商売やっている方々の研修とかいうときはもちろん有料でお使いになるのは当然だと思つたのですけれども、そうじゃなくて、ちょっとした集まりですよ、私が一番思ひましたのは、子育て中の若いママたちが花巻だったらそれこそいろいろな施設があつて簡単に利用できる場が多いと思ひますけれども、私、東和なのですけれども、本当に少ないんです、そういう気軽に集まれる場所が。子育て支援センターを利用して、その後みんなで集まつてお昼を食べながら親交を深めようという時にきてどこに行きましようといった場合、東和の場合はコミュニティセンターというものがあるんですけれども、そこですら有料ですと言われて、若い人たちですから、たいした額じゃなくても有料ならやめたといひて解散したといひのですけれども、そういうことじゃなくて、もっと気軽に若い人たちも数人集まつて借りれるような所、花巻市内、市外、東和とか石鳥谷、大迫そういうところの施設ならなおさら、もっと門戸を広げて使いやすい施設にして無料にするべきではないかと思ひますが、そういうお考えはないでしょうか。

(石橋議長) ありがとうございます。費用といいますが場所の費用についてのご質問だったと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局：市川課長) 生涯学習事業以外というところがやはりちょっと引かかるところで、どんな方でも部屋を貸し出せますと言ったときに、たくさん、もういっぱいある、というのであればいいのかもしれませんが、使っていないのに借りられるとかいった例があったりすると非常に気になるというのがありますが、その辺ちょっと検討させていただきたいと思います。そういう若いお母さんの集まり、一般の人が普通に集まりたいといった場所となると生涯学習の施設というより、まちづくり的に商店街に空いているところを貸し出したりですか、何も新しい施設を建てなくてもできることでありますし、それが生涯学習の分野を超えてしまう部分もあると思いますので、その辺は検討していかないと。まちづくり的なですね、人口も減っているし若いお母さんたちを支援していかなければいけないという動きもありますので、それはまた、私たちだけではなくて別の部署も交えて、こういう意見があったのだけれどどうか、と検討していきたいと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。門馬委員さんの質問に対しては検討させていただくという回答でした。他にございませんでしょうか。福盛田委員さん。

(福盛田委員) 14ページの中ほどに「まなび学園の玄関先」とありますよね。掲示板がある。今日確認してこなかったのですが、なかなか壊れてからか暫く経つんですね。ここ1週間に1回くらい来て見ているのですが、掲示板が修復されてないので気になるので、そうしたらここにも書いているので、その辺ちょっと説明していただけますか。

(石橋議長) 今の質問、市川課長さん。

(事務局：市川課長) もう少しで直ります。今、発注はしております、デジタルサイネージシステムなどと申しまして、そう簡単ではなくて金額も高くなるものなんです。それを今やっていて、もう少しで直るような状況となっています。

(石橋議長) そういうことでしょうか。他にございませんでしょうか。特になければ次に進んでよろしいでしょうか。はい。では、これは打ち切りまして、次に生涯学習振興計画における主な成果指標の進捗状況について
説・・・

(紺野(佳)委員) すみません。すみません。質問は終わったけど、意見とか要望はどうでしょうか。

(石橋議長) まとめて伺ったつもりで、私は申し上げていたのですが。

(紺野(佳)委員) 質問に限って申し上げていたのですけれども。意見と要望がありますが。駄目でしょうか。

(石橋議長) じゃあ、はい、お願いします。

(紺野(佳)委員) 私はこのアンケートでこれからのことで大事だなと思うことがありました。1つ2つだけ。問5のですね(1)ですか。その他のところに書いてくださった方々の内容を見ましたら、交流の場になってほしいと、生涯学習をした後に、人との交流、友達づくりですとかね仲間と一緒にですとか、そういうその他を書

いた人が多かったんですが、とても大事なことではないかなと。生涯学習の場合、自分の教養を高めたり、趣味の力をつけたりするというのもいいんだけど、まちづくりの意味からは人との繋がりとか交流とかとても大事だと思っております。それが生涯学習の大事な役目ではないかと思えます。その点でこういう項目に書いてくださったこと大変良かったなど。ぜひこの意見を取り上げていってほしいなと思えます。それからもう一つは、発表の場があればいい、生涯学習をやっている方々の発表の場があれば意欲が持てるというようなことを、その他のところで書いた方がいました。何か所かに。それで、発表の場がまなび学園祭にあるわけですが、あれは学び学園での活動している方に限りの発表の場ですね。先日、文化会館で花巻裂き織り作品展というのがあったんです。これは、たぶん会場費も負担したんだろうし、いろいろお金もかけたんだろうし、活動している方々も会場を借りてお金を払いながら活動していると思いますが、大変な盛況でした。こんなに花巻でまとまって展覧会ができるほどまとまって活動している裂き織りという活動があるっていうことに私は大変感動いたしました、どんなふうにしてこれが展覧会までこぎつけたのかということを知ったら、案外あっさりそうですね、みなさんが話し合っただけで決まったという話なんですね。それで、まなび学園ではないが、そういう発表の場を自ら作っているということに対して大変大事だなと思ひ、花巻市内ではあまり会場費かけなくても発表の場を空き店舗を使ったりということは可能かと思えますので。どんどん進むような後押しを生涯学習の方でも考えていただければとそんなふうに思いました。それからあともう一つです。公共の場は今までどおり使用料はタダだということを知って大変良かったと思えますが、これからは是非、生涯学習のために花巻市民が公共の場を使うときには、ご理解をいただいて無料にいただければと思います。以上です。

(石橋議長) 課長さん、コメントはございますか。

(事務局：市川課長) よろしいです。

(石橋議長) ありがとうございます。それでは次に用意しておりました生涯学習振興計画における主な成果指標の進捗状況についての説明をお願いいたします。ただ、ちょっと私の方から質問させていただきたいのですが、この成果指標というのはどういう意味で、成果指標ということなのか、その点をちょっとご説明いただければ幸いです。

(事務局：市川課長) この成果指標はですね、前回と違いますか、今の計画の中でですね便宜上といいますか、事業ごとに指標を定めまして、平成27年度の目標を設定していたものでございます。この数字を目指して事業を進めていこうということでやってきたもの、というふうになっております。

(石橋議長) ありがとうございます。そういうふうな意味で成果指標を使っておられるようです。これについてご説明をお願いいたします。

(事務局：市川課長) それでは、細かくて恐縮ですが、A3のもの2枚の資料をご覧いただきたいと思ひます。

～ 配布資料 (No2) について説明 ～

(石橋議長) 今、ご説明をいただきましたけれどもこれについてご質問、ご意見等ございませんでしょうか。佐々木委員さん。

(佐々木(勝)委員) 生涯スポーツをする施設の充実に関してでございます。私、生涯スポーツのペタンクとこのをやっているんです。生涯スポーツの場合は通年でやるというのが、これが健康増進にもっとも大事だと考えておりますが、そういう点です、冬季間に活動する場所がないんですよ。今借りてやっているところというのが、毘沙門ドーム、これをお借りして週2回、12月から3月までやっておりますが、これが花巻市内にもあいうドームあると通年でできるなど。高齢者が多いものですから、そういう点では雪道なんか運転ということで、非常に危険な場面もたまたまありまして、そういう点ではそういう施設が旧市内にあればいいなど、こんなふうに思っております、これに限らずおそらく今回のアンケート見まして、みなさん健康で自立した生活、質の高い生活、これを実践しているということが、このアンケートで初めて私、知りました。そういう点でおそらく私がやっている生涯スポーツ以外のところでも、通年でできればいいなど思っているところが多いんだと思います。そういう点で、これを市の体育協会なんかと関連してくると思っておりますが、そういう点で今後考える余地があるのかどうか、その辺を聞きたいです。要望としては是非造ってほしいなという要望でございます。

(石橋議長) ありがとうございます。今の生涯スポーツの冬季間のスポーツする場所についてのご質問ということで、よろしいでしょうか。このことについて、この点について課長さんいかがお考えでしょうか。細川部長さんでしょうか、お願いいたします。

(事務局:細川部長) 私の部はスポーツも担当しておりますので、私の方からお話し申し上げたいと思います。確かに、今、委員さんからお話しがあったとおり生涯スポーツという視点で考えれば、通年でスポーツの場所とのご要望、それももっともというふうに存じます。いかんせん、非常に施設数が多いという状況は正直な部分でございます。体育施設、総合体育館から、各地区体育館、あるいは、太田の冬場はクローズなわけですがラグビー、サッカーのキャンプ村、様々なスポーツ施設がございます。東和地区には今ご紹介のありました毘沙門ドームですとか、体育館もありますし、プールもございます。合併というのもございますけれども、非常に各地区、施設が多くございまして、その維持管理だけでもかなり経費が必要な状況というのは正直あるのが実態でございます。テニスコートなども大迫にあるのですが、あれも大分使い込んでいて、砂入り人口芝になっているのですけれど、あれを張り替えるだけでも結構いい額がする、1面やると千万単位の費用がかかるということで、正直言うて思うようにそういった維持管理も含めて充実していく方向にいききれていないというのが実態かと思っております。市では、そういった体育施設ばかりではなくて、市が何十年か前にいろいろ補助金をもらって建てた各地区にある施設、いっぱいあるわけなのですが、実際公民館とかいろいろな使われ方があると思っておりますけれども、その建物を今後将来に向かって本当に維持していけるのかという部分の視点、どのくらいかかるのかということも含めてですね総合管理計画ということで今進めております。下調べのデータベースのところから今やっているものですから、ちょっと時間がかかっているようでございますが、将来、これ維持していくのにどれだけかかるのかと、それが耐用年数がきたら建て替えるのにどれだけかかるのかというのを踏まえながら、あるべき姿、必要なニーズも踏まえながらやっていかなければならないのだろうという状況に正直なっております。今、お話しはごもっともですし、ご要望も賜ったところですが、なかなか右から左に花巻市内でドームみたいなのを造りましようと言えるのかということ、なかなか歯切れよく申し上げにくいというのが正直なところであります。それでもやっぱりその限られた財源の中でも、みなさんのそういったご要望、ニーズを踏まえてあるべき方向に建

て替えれるのであれば、何個かまとめてそういったニーズにあった建物に変えていきなりしながら進んでいかなければならないというふうに思っておりますので、ただ今のご要望も十分認識して踏まえながら今後そういった計画も含めまして検討を進めていきたいというふうに思っております。よろしくお願い申し上げます。

(石橋議長) ありがとうございます。佐々木委員さんから冬場のスポーツする場所についてのご質問だったんですけども、細川部長さんからは、施設設備等の多さ、それを維持管理する費用等の関係から、要望には理解はできるけれどもなかなか難しい問題を含んでいるというようなご回答でございました。佐々木委員さんよろしゅうございますか。はい、ありがとうございます。他にございますか。小原委員さん。

(小原委員) 33番の少年センター事業ですけども、この間の大阪の事件がありましたよね、殺人事件、2人殺害された事件ありましたよね。そのように警察で補導された数が26年度、そして27年、これはあくまでなのでですけども、400何名ということで数値が出されていますが、本当にご苦労なことだと思うんです。夜の街を徘徊して歩くということがそもそも少年事件になっていくというふうに思いますので、そういう点は家庭でも注意していかなければならないんですけども、補導員の数が76名が平成25年度だったんですけども、26年度は73名と少なくなっているもさらに回数が300回以上となっているところが見えてますので、これはどういうふうなことで補導員さんを少なくなさったのかお伺いしたいと思います。

(石橋議長) 今にぎわしている少年の非行問題ですか、それを補導する方が76から73に少なくなっていると。その点についてどういうふうな経緯があるのかというようなご質問だったと思います。その点、市川課長さんよろしいでしょうか。

(事務局：市川課長) この補導員の方々はですね、各学校にお願いして学校の先生と、地域にお願いして地域の方に推薦いただいてやっているものでございまして、必ずこの人数ということではありませんので若干の動きがあった部分でございます。いずれはあの、年間の日数によって若干の動きもありますけれども、学校の先生や地域の方々に協力いただいて、イベントの時とかお祭りの時とか見てもらったりしているものが少年センターの事業でございます。その他に警察が直接補導している部分も入った数値となっております。この間の事件がやはりありましてですね、私ども少年センターでは、補導委員の皆様には、やはり子供たちの一人歩きとかですな夕方とか、事件があったからどうだというわけではないですし学校でも当然指導されていると思うのですが、もしそういう子供がいた場合には気を付けるように声かけをしてほしいというような通知も出したりしているところでございます。

(石橋議長) はい、ありがとうございます。小原委員さんよろしゅうございますか、今の説明で。それでは、佐々木委員さん。

(佐々木(繁)委員) 学習振興計画による主な成果指標はかなり良くなっていると思っております。ただ、数も立派な成果指標にはなるかとは思いますが、数だけでは成果と言えないような気がします。それが第1点あります。あと、生涯学習とまちづくりの線引きってあったんですが、それはちょっと難しい部分もあったのだと思います。市のレクリエーション協会でも3年目になるのですが、50代から70代のいきいき元気塾、まあ、健康と仲間づくりとスポーツです。今回は、脳卒中ゼロを目指してというようなこととか、あとは、ウォーキン

グの基本、あるいは太極拳とかです。ねやるわけなんです、仲間づくりもあるわけなんです、3回シリーズでやるわけなんです、今年で3回目になるわけですが、人数がすべてだとは思っておりません。参加者が少ないときもあったんですが、何でこんな良いことをもっと多くやってくれないのかと言われたこともあります。スタッフのこちらの力不足もあるのですが、やっぱり数だけで決めてはいけないのかなと思います。もちろん数も大事ですが。それが一つ。あともう一つなんです、32番、33番に関係あるのですが、やっぱり補導員が多くなって、なればなるほど補導される人数も多くなるような気がします。少年を補導することも大事ですが、少年が喜ぶような成果ある活動をやっているのかという、32番に青少年健全育成フォーラムというのがあります、市の市民会議の会長さんもいる前で話づらいのですが、とても子供たちに感動的な体験をやっている事業等があるので、そんな活動をもっと市内にPRさせたいなと思っております。詳しくは私には言えないので市川委員さんに補足をお願いしたいと思っております。

(市川副議長) ちょっと突然ふられてしまったのですけれども、市民会議としてまず大きなことは、市内の19ある小学校の生徒さん方、代表となる全部で60名ほどの生徒さんたちだったのですが、今年で4年目かな、石鳥谷の戸塚森の野外活動センター、あそこでキャンプをやっているんです。実はこれの主催をしているといっても、具体的な指導は繁夫先生に先頭に立ってやっていただいて、本当に、さらに花北青雲高校のボランティアで生徒たちが一緒になって応援してくれるものですから、さらに私もそういうお兄さんお姉さんになりたいなって、そんな感じで小学校5、6年生の子供たち。別れるときなんか、私たちも本当に感動、胸が熱くなる感動的な場面があります。ただ、人数が限られているから、多くの子供たちに体験させたいと思うのですがなかなかそうもいきませんが、できるものであれば多くの子供たちにそういう体験をさせることによって、その健全育成の一環となるのかなとそんなふうに思っております。簡単にご紹介いたしました。

あのついでによろしいでしょうか、別なことで。お伺いしたいと思います。

生涯学習推進体制の整備についてです。課長さんからは説明がありまして理解はいたしましたけれども、平成20年3月に策定いたしました計画の中で、本計画の効果的な推進及びその進行状況を検証評価する、評価するための推進体制を図るんだという文言があるわけですが、その中で先のアンケートの中に先ほど話題になりましたけれども私も案外ないかなと思ったのですけれども、生涯学習に関心がない、生涯学習の意味が分からない、生涯学習を知らない、誰が何のために行っているのかなどなど多くのことが記載されているわけですね。だからやっぱり、そういう、これらを解決というわけにはいかないと思うけれども、やっぱり検証評価するための何らかの手立ては必要ではないかと思うのですが、その辺は、先ほどの説明で分からないわけではないのですが理解はしましたけれども、もう一步踏み込む必要はないのかなということを感じましたので。お伺いします。

(石橋議長) 市川課長さんお願いいたします。

(事務局：市川課長) そうですね。何らかの評価する仕組みは必要だと思います。行政評価という中でですね、全体の市の行政の評価の中で、例えば生涯学習についてもですね、一般の委員さんから評価を受けている部分がございます。全体の中ではございますが。それ以外にやはりこの社会教育委員の皆様方から意見をいただくとかですね、そういうのが評価になるのではないのかなと思います。佐々木さんが先ほどおっしゃったとおり、数だけではどうなんだろう、とういうことは私も思っております。前回の計画、評価といえますか指標ですね、たくさんあげてはいるのですが、先程申し上げましたが、これはどうだったんだろうという数字もありますし、その数字を目指して本当によかったんだろうかというところとか、後からになって気が付く部分があったかも

れませんが、何もかにも、数字に表してそこを目指すことが正しいのかというと、違う部分もあるかなと考えておりますので、厳しく数字だけあげるというのではなくて、数字をあげる部分もあればこういう言葉で表現できる部分もあって、そういうのをしっかり評価できる体制になればいいかなというふうには思います。

(石橋議長) ありがとうございます。他に質問あるいはご意見等ございませんか。菊池委員さん。

(菊池委員) 今のことなんですが、私も数字がすべてだとは決して思わないんですが、平成19年に計画して27年までというその成果指標、これはわかっているつもりではおりましたが、例えば達成とあります9番11番のあたりなんですが、達成とあって平成20年とあります。そして段々減ってきている9番も減ってきている、平成20年には達成しているけど段々減ってきている、こういうことに対しての分析とかはしているのでしょうか。

(石橋議長) はい、課長さんお願いいたします。

(事務局：市川課長) これもですね、数字の仕組み的にこの年度内に達成できればいいという考えでやっていたので、便宜上は達成となっておりますが、ご指摘のとおりですね、すぐ達成したのだけれども減ってきているというのは、この他にもございまして、そこは本当に必要だったのかとかですね、高齢者の学級などもこれだけ盛んだと言われていて、達成していない減ってきている、全体として減っている講座数の参加者というのは減ってきているのではないかなと、感覚的には花巻の生涯学習は進んでいてですね、講座数も参加者数も多くて、いっぱいやっているというふうに言われてたりですね、北上と比べてでもそういうことは出たりしているのですけれども、実際の数字では減っているというところも見られますので、やはり数字がすべてではなくて周りの状況とかですね、評価する期間中1回達成すればいいということではないのではないかなということもあると思うので、そこも踏まえて次の計画では考えていきたいというふうに思います。

(石橋議長) ありがとうございます。菊池委員さん、今のご回答でよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

(佐藤委員) よろしいでしょうか。先ほどのアンケートと次の計画策定に向けての話でございますので、それを併せて少しお話をさせていただきたいと思います。よくこの生涯学習の調査で悩むのはやはり「生涯学習していますか」、と聞くことにすごく躊躇しながらやらなきゃならない。でもやっぱり何らかの形で把握したいという、そういうジレンマの中でやられているというのはよくわかります。そもそも学習というのは幅広いのですから、自宅であろうがどこかの場所に行って講座を受けるのであろうが非常に幅広い方法ですので、要は一人一人が生き生き広い意味での学習に臨んでいるとか意欲的に臨んでいるかということなので、その把握というのは非常に限界があるのだらうなと思います。そういう意味でも今回こういう調査をして結果を得られたので、これを踏まえてこれから策定ということになるのですが、花巻は非常に生涯学習の先進地、岩手でも先進地なので、私はやっぱり全体総計を見て一番感じるのは次の生涯学習の振興施策というのは、趣味教養からのシフトといいですか、次の段階へシフトするということの一つテーマとして掲げるべきではないかと。過激な言い方をすると脱却ということになるのですが、もうそういう趣味教養を中心とした生涯学習というのはかなり盛り上がりを見せていますので、現計画でもいろいろ協同によるまちづくりということは触れられてきていますが、やはりそちらの

方にシフトすることを意識して策定していくべきではないかなというふうの一つ思います。それが1点。2点目は、今回は配布いただいた集計表は総計のみで多分詳細はもっと分析をされているんだと思うんですけど、やはり年代別の回収状況をみますと、かなり60代以上が47%以上ですので、あのトータルでいうと、やはりどちらかという60歳代以上の意見が非常に大きく出ているということがあります。多分これを世代ごとに分けると、いろいろ分け方はあると思うんですけど、例えば30代までと、まあ青少年、青年でしょうか、あと40代50代、そして60代以上と仮に3つに分けたとすると、結果が多分違うんですね。それがやっぱりそれぞれのライフスタイルというのが背景にあつての回答の違いだと思いますので、やっぱりそういう世代の分け方をしてライフスタイルとか各世代に対応する施策というのを考えていかなければならない。今までもしてきたと思うのですが、よりやっぱりそういう強く意識してそれぞれの各世代に応じるような施策というのを考えていかなきゃならないんだろうと思いますし、先程来でている旧市町のことを考えますと、やっぱり各地域によって施設の状況も生涯学習の状況もちよつと違うとすれば、各地域に応じた施策、逆にいうと各地域課題ということにつながってくると思うのですが、そういう施策の方向性というつくり方もありなんじゃないかなと思います。加えれば、もっと花巻らしさを生かす生涯学習施策なんていうのもあればいいんじゃないかなとも思いますが、成果指標の一覧の一番左側に掲げられている施策の方向性の中に位置づけるということも重要なのではないかなと思います。いずれ、生涯学習というと高齢者をイメージする方々は現実に多いわけで、やはりそれよりも下の世代、なかなかいわゆる生涯学習に関わりが薄いと思われる世代の人たちのいわば声なき声を、十分耳を傾けて尊重して施策を策定することというのが重要なんだろうなというふうに思います。以上です。

(石橋議長) ありがとうございます。これについて課長さんいかがですか。

(事務局：市川課長) 大変ありがとうございます。やはりそのとおりで思っております。現計画でもですね、まちづくりにつなげるということで掲げてはいるんですが、なかなかそこまでいっておりませんでした。生涯学習をまちづくりにつなげるようにできればなというのが、花巻市の目指すところですので、そこは次の計画でやっていきたいなと思っております。そのアンケートについてはですね、詳細な分析はご意見いただいたとおりやはりそのとおりで思いますので、きちんと分析して参りたいというふうに思います。あとはですね、やはりアンケートに答えてくれなかった人といえば変ですけども、先程おっしゃられた声なき声という変ですが、そういう方々も確かに踏まえなければいけないかなというふうに考えながらいかないと、やはり、わかっている人たちだけの策になってしまうとやはりまちづくりにはつながらないのかな、というところも今のお話で感じましたので、その辺も踏まえていきたいと思っております。ありがとうございます。

(石橋議長) ありがとうございます。佐藤委員さんよろしいでしょうか。その他にご質問等ございませんか。無ければですね、これを打ち切りまして本日の議題については終了させていただきたいと思っておりますがよろしゅうございますか。特に無いようですので、これらの議題については終了とさせていただきます。ありがとうございます。

4 その他

(事務局：小原主任主査) 続きまして次第の4番目、その他でございます。事務局からは特にございませんが、皆様方から何かございましたらお願いいたします。無いようですので、それでは閉会に当たりまして、細川生涯学習部長より一言ご挨拶申し上げます。

(事務局：細川部長) 委員の皆様方には、長時間に渡りまして活発にご発言を賜りまして誠にありがとうございます。いろいろな面で貴重なご意見を頂戴したというふうに受け止めております。やはり、最後に佐藤委員さんの方からもご指摘がございましたとおり、やはり若い世代が参加していただける生涯学習という視点をやはり考えていかなければならないのかなというふうに改めて思いましたし、様々な部分で改良あるいは方向性の転換、そして冒頭、課長の方からも申し上げましたが、振興センター単位での生涯学習事業を地域のコミュニティ会議さん中心の取り組みにお願いしていくという節目、流れの状況になっております。まさしく地域で行う生涯学習は、ひとづくり、あるいはひとのつながり、あるいは地域のつながり、そういったものに直結していく事業になるものというふうにも考えますので、そういった部分でやはり、連携あるいは方向性をきちっと計画の中でお示ししていけるような内容にしていければいいなというふうに改めて思った次第ですので、今後また計画を進めていく段階でいろいろまたご意見を賜りたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

5 閉会

(事務局：小原主任主査) 以上を持ちまして、平成27年度第2回の花巻市社会教育委員会議を閉会とさせていただきます。委員の皆様、大変ごくろう様でございました。